

「PBSの手法を用いた算数科の授業づくり  
～教師が変われば子どもが変わる～」

# 学級の子童の実態

- 3年生
- 行動力があり、どの子童もやる気に満ちている。
- 教員の指示を理解すると、ささっと行動に移すことができる。
- 子童どうして助け合いができる。
- ノートを確認すると、最後まで理解できている子童が多い。
- 授業中:じっとしてられない子童がいる、私語をする、物を落とす、手遊びをする、トイレへ行く等、学級全体が落ち着かない状況である。
- 休み時間:遊び中、エスカレートしたりルール違反をしたりして、トラブルが頻繁に起こる。



# 学級における取組

## 【学級目標】

明るく元気に自分も友だちも大切にできる3竹  
(3年竹組)

## SWPBS【○小3つの約束】

- ・気持ちのいいあいさつをしよう
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」など、あったか言葉を言おう。
- ・友達のよいところを見つけよう。

## 【取組①】

- ・「人の話をよく聞く」「1日けんかなく仲良く過ごす」を目標に設定したビー玉貯金を実施。
- ・授業終了時や帰りの会で振り返り、できていれば花丸1つゲット。(花丸=ビー玉の数)
- ・ビー玉が入れ物いっぱいになればお楽しみ会、「なりたい4年生に近付いているね」と意欲付け。

## 【取組②】

ちくちく言葉のゴミ箱:ちくちく言葉をなくし、あったか言葉があふれる学級に!

# 担任の思い

## 授業について

- 発表する児童が固定しているなので、他の子も発表できるようになってほしい。(自信がない・・・?自分が発表するよりいつも発表している子がする方がいいと思っている・・・?)
- ペアやグループワークで、活発に話合いができるようになってほしい。
- 集中できる日が増えて欲しい。



## 日常生活について

- 話を聞くときは、手を止めて聞けるようになってほしい。
- 児童どうしが認め合える関係になってほしい。



# コンサルテーション前の授業スタイル

- 児童に称賛を意識的に行う。
- 教科書の大事な部分をモニターに投影したり、視覚的な支援を取り入れたりする。
- 板書を写す、一人で考える、挙手して指名されたら発表する活動が中心である。
- 教科書に沿って授業を進めているが、授業の流れが単調になりがちである。



# コンサルテーション前の授業

授業は丁寧に進めよう。  
時間をかけてゆっくりと  
説明をしたらみんなが  
分かるだろう。



算数の授業は  
元気がないなあ。

いい行動を褒めても  
困った行動が  
減らないなあ...

# アドバイザーからの助言①



どの児童も先生に注目してもらいたい気持ちにあふれている。注目してもらうための手段は、活躍するか逸脱するかのとちらかしかない。

- ✓ 教員が全員を承認し続けることは難しい。
- ✓ 「挙手して発表する」「黒板に答えを書く」は、指名された子にしか注目されないなので、全員が活動でき、承認される場面を増やす。

## アドバイザーからの助言②

ノートの書き出しが遅い児童がいる。ノートを書く場面かどうかの判断ができていなかったり、準備が整っていない児童がいたりする。ノートを書き遅れるとどんどん進度が遅れる。



- ✓ ノートを書くときは、細かく児童の動きを確認して、小刻みに称賛を行うようにする。
- ✓ 特に、書き始めがポイントになるので、書き始めているか確認をする。

# アドバイザーからの助言③



立ちたい・動きたい子がたくさんいる。  
先生が指示を出して児童を動かす機会を多く作る。

- ✓ 井内先生の褒め言葉はめっちゃめっちゃ効いているので、適切に行動を行う機会（称賛される機会）を増やす。
- ✓ 「先生が指示→子どもを動かして先生が確認→称賛」という機会を細かく設定する。

## アドバイザーからの助言④

授業内に、全員が「できた!」で終わることをゴールにする。できたかどうかを確認することが重要。



- ✓ 「まとめ」→「練習問題」→「確認テスト」の順に実施し、確認テストをクリアするのがゴール。「まとめ」を練習問題や確認テストで使いこなす。
- ✓ つまづきは「練習問題」の段階で。
- ✓ 手立てがうまくいっているかどうか確認するために、記録をつける。うまくいっていないことがわかれば、手立てを見直し、うまくいっていれば指導を継続する。

改善①

# 授業における手立て①

アウトプットのバリエーションを増やす

\*「めあて」や「問題文」を読む時に **アレンジ** を加える!

- ・「今日は、前半は右側の人、後半は左側  
の人が声に出して読みます」
- ・「今日は全員でいきます」
- ・「起立して読みます」 等



参加方法に変化を出すことで、マンネリ化を  
防ぎ、意欲的に活動できる効果あり。

改善①

アウトプットのバリエーションを増やす  
\*ペア学習をコンパクトに小刻みに実施する!

ペアで答え合わせ  
ペアで意見交換



級友からの承認

全員がジェスチャーで意志表示  
「同じだったペアは2を挙げて」  
「意見が違ったペアは1を挙げて」



教員からの承認&安心して間違えることができる環境づくり

▶ 全員が同時に活動する場面が増え、児童が動いている時間が増えた。級友や教師からの承認される機会の増加に繋がった。

改善②

## 授業における手立て②

ノートを書く場面で、細かく区切って指示を出す！  
児童の行動を教師が見て、できているか確認する！

行動の前

「ノート開けてください」

①めカード&少し書く

板書を書き終える

子どもの行動

ノートを出す

書き始める

板書を写す

行動の後

「ノート開いてるな」

「書き始めてるな」

机間巡視で「OK」

行動を見て、できているか判断

改善②

机間巡視で素早く全員を目視する!



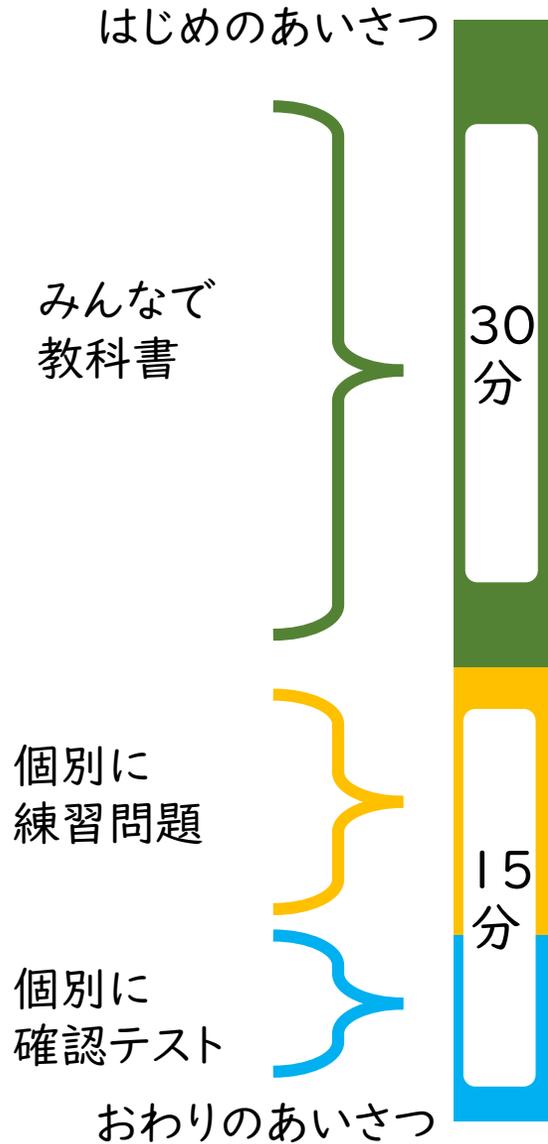
全員への称賛のチャンス

ノートの書き始めを揃えることで、全員の進度が揃い、早く書き終わった児童の待ち時間が減った。問題の解き遅れが減ったり、全員が解き終わるまでの所要時間が短くなったりした。

## 改善③

# 授業における手立て③

全員が「できた」で終わるための授業設計  
\*授業の組み立て・時間配分を工夫する!  
\*間違いは練習問題のうちに修正する!



確認テストをクリアできるように練習問題中に  
机間巡視しながら個別にサポートする。

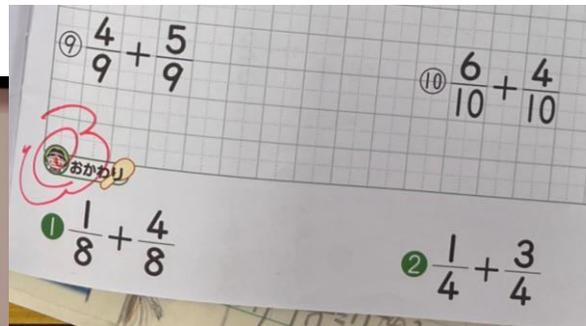
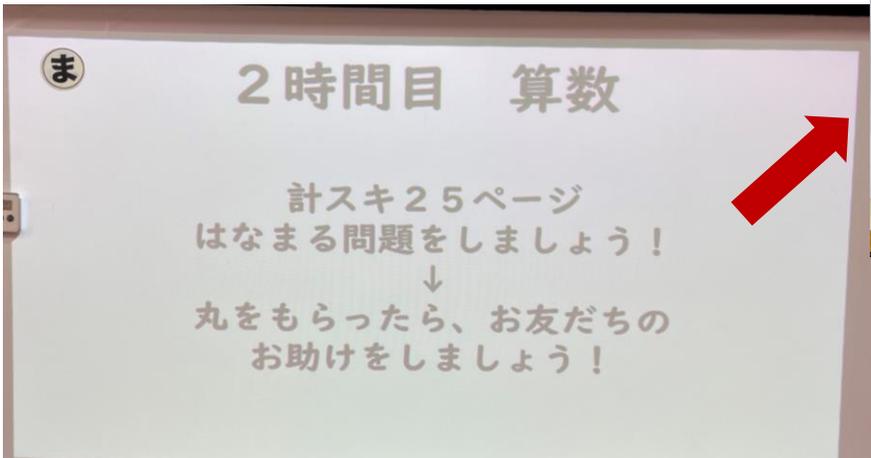
まとめを先に行う。まとめを  
使って練習問題を解く。授業  
の組み立てを一定にすること  
で授業の流れがスムーズに。



### 改善③

- \*確認テストを短時間で実施できるように工夫!
- \*確認テストで授業の理解度を確認!

指示を視覚化することで、すべきことがわかり取り掛かりが早くなる。  
1~2問を実施。既存のワークを活用することで授業準備も楽に。



丸つけて理解度を確認

その日のめあてが達成できたか否かを確認することができた。

全員を称賛して授業を終わることで、「できた」「わかった」「なるほど」という声が増えて、達成感に繋がっていると実感した。

## 授業後に振り返って記録をつける

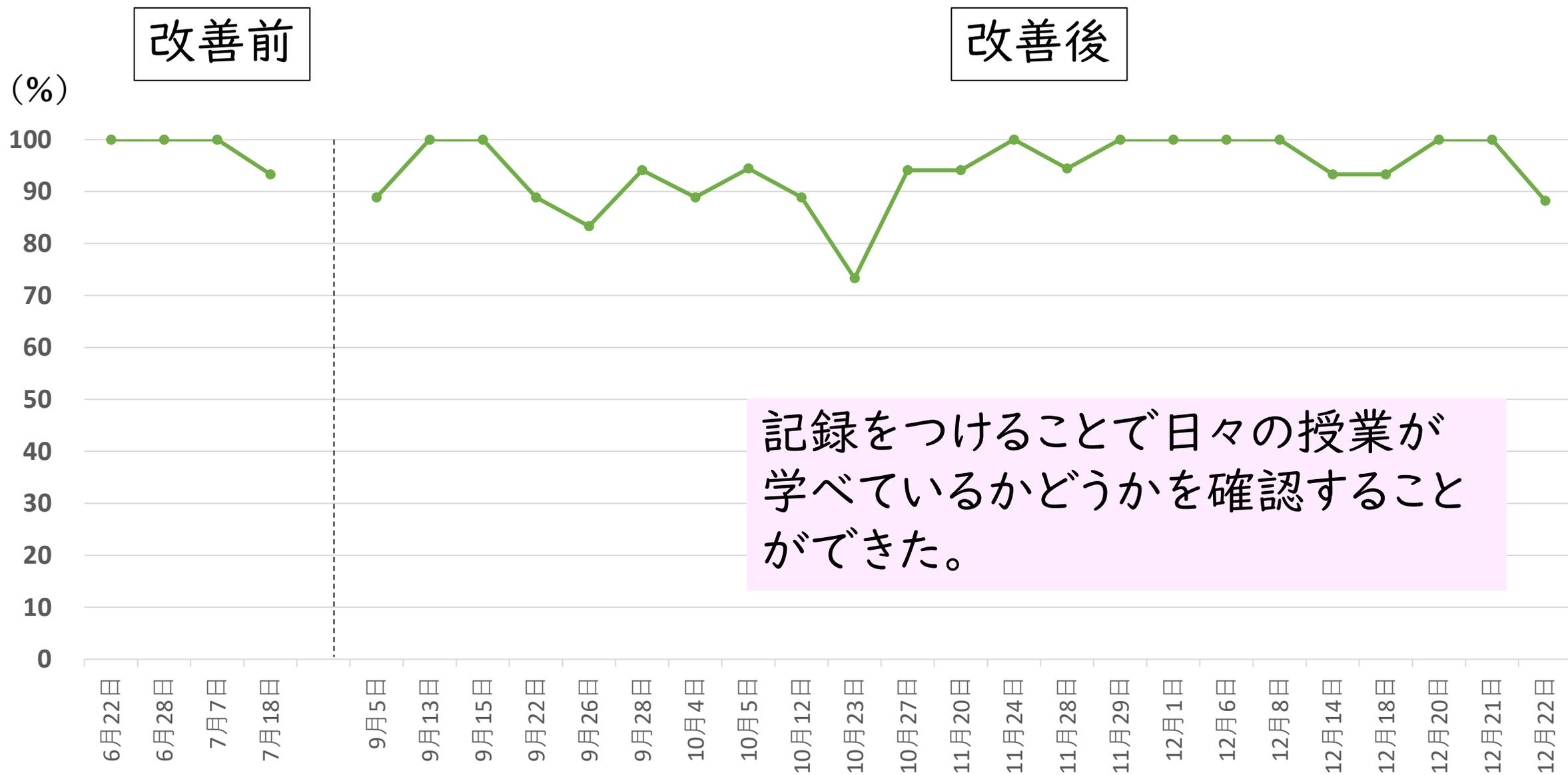
行動	日付																			
	6/20	6/21	① 6/22	② 6/23	6/26	6/27	① 6/28	② 6/29	6/30	7/3	7/4	7/5	7/6	① 7/7	② 7/10	7/11	7/12	7/13	7/19	
授業参加: 指示されたこと、やるべき活動 に終始従事できていた児童の 割合	5	⑤	⑤	5	5	5	5	⑤	5	5	5	5	5	⑤	5	5	⑤	5	5	5
	④	4	4	4	④	④	④	4	4	④	④	④	4	④	4	4	④	④	4	④
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	③	3	3	3	3	③	3	3	3	③	3
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
問題行動: 授業中に対応(注意する等) する必要があるような児童生 徒の不適切・妨害的な行動 (奇声、離席、私語、姿勢の乱 れ等)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	⑤	5	5	5	5	5	5
	4	4	4	4	4	4	4	4	4	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	③	3	3	3	3	③	③	3	3	3	③	3	3	③	3	3	③	③	③	③
	2	②	②	2	②	2	②	2	2	2	②	②	②	2	2	2	②	2	2	2
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
確認テスト(O)の人数			16	16				17	10						18	7				
確認テスト(Δ)の人数																				
確認テスト(X)の人数			0	0				0	7						0	11				

- 最初はオリジナルの確認テストを作成していたため、テストの採点と記録用紙への記入に時間を要した。
- 行動を絞って数値化した記録をつけることで、児童の状態を客観的に振り返ることができた。
- 記録を見て、児童が徐々に変化していくことを感じる事ができた。

○:一人で(支援なしで)できた / Δ:教師が支援してできた or 訂正後に(直して)できた / X:できなかった  
 ※確認テストで基本と応用を実施した場合は、左の欄に基本の人数を、右の欄に応用の人数を記録する。

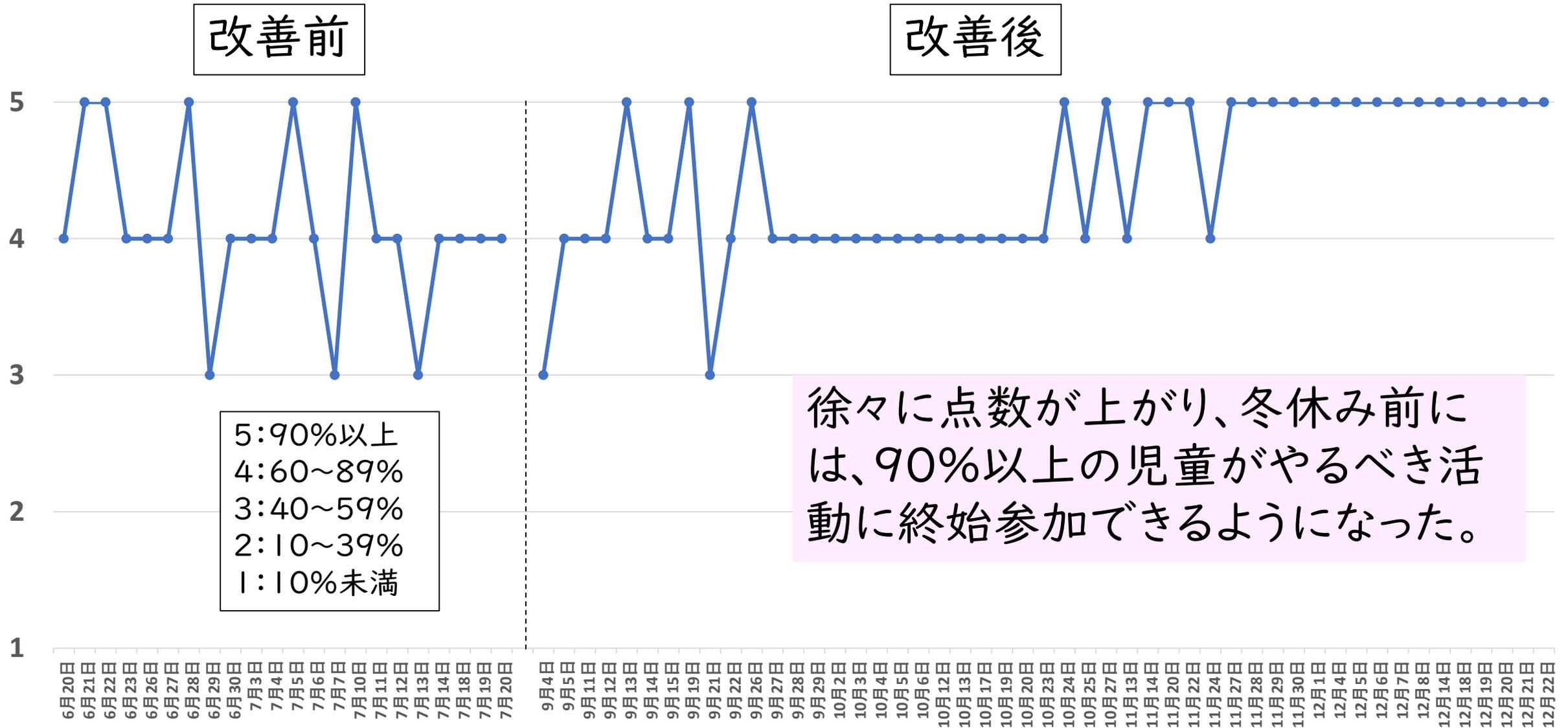
<授業参加>		<問題行動>	
5	90%以上(ほとんど参加)	5	授業中に不適切・妨害的な行動が9回以上見られた
4	60~89%(参加は半分以上)	4	授業中に不適切・妨害的な行動が5~8回見られた
3	40~59%(参加は半分程度)	3	授業中に不適切・妨害的な行動が3~4回見られた
2	10~39%(参加は半分以下)	2	授業中に不適切・妨害的な行動が1~2回見られた
1	10%未満(ほとんど参加していない)	1	授業中に不適切・妨害的な行動は1回も見られなかった

# 結果①確認テストを正答した児童の割合



# 結果② 授業参加

指示されたことややるべき活動を、終始できていた児童の割合

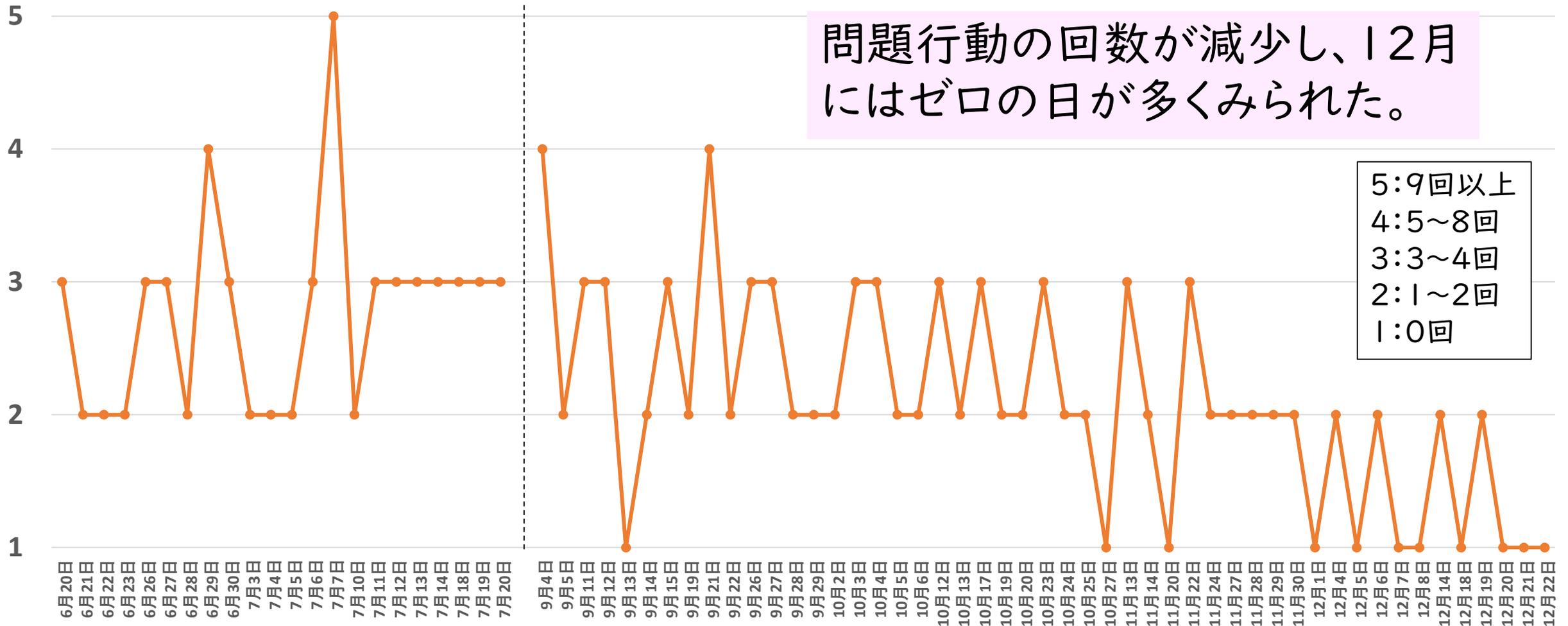


# 結果③問題行動

## 授業中に対応する必要がある児童の不適切・妨害的な行動の回数

改善前

改善後



# 成果



- 記録を見ると、学習活動に十分参加できていなかったり、問題行動が多かったりするのにも気付いて、教師自身の授業の振り返りになった。
- 算数の授業で、ペア活動（友達と話し合う）などを取り入れたことで、教師主体の授業から児童主体の授業に変化し、児童が自分で考えたり自発的に活動できたりできるようになった。
- 今までの算数の授業は単調だった。コンサルテーションを受けて、児童が動く活動を取り入れたことで、授業に活気が生まれ、楽しんで授業を受けられる子が増えたように感じる。

# ここが成功のポイント!

子どもを変えようとするのではなく、  
教師が変わろうとすること。



**キラッピー**

みんなで考えた  
学級のキャラクター